

令和6年度 自己評価および学校関係者評価書

令和7年3月19日
函館市立桔梗小学校

1 本年度の重点教育目標

・心をひろくもつ子 ・頭をつかう子 ・体をきたえる子

2 本年度の取組の重点

① よりよい人間関係を醸成する教育活動の推進	② 「いじめ」「不登校」等の未然防止や早期発見・早期対応
③ ICTを活用した子供一人一人が主語となる学びの充実を図る主体的・対話的で深い学びに向かう授業の構築	
④ ICTも活用した基礎基本の確実な習得と活用を図り、思考力・判断力・表現力といった学力の定着	
⑤ 情報の提供と保護者・地域との双方向による連携の強化	⑥ 各種学校との連携の充実

3 自己評価結果に対する学校関係者評価

分野	評価項目	自己評価結果		学校関係者評価	
		達成状況	改善の方策	自己評価の適切さ	改善の方策の評価 主な意見（改善策など）
よりよい人間関係を醸成する教育活動の推進	感謝の気持ちを持ち、よさを認め合える教育活動の推進を図ることができたか。	a	よりよい人間関係を醸成するためには、学校が安全・安心な居場所となることや児童の発達を支持する指導が必要である。このことから、今後も校内研修等で「支持的風土の醸成」や「アンガーマネジメント」はもちろんのこと、「学年・学級経営」や「教育相談」を取り上げるなどして、よりよい人間関係を醸成していけるような取組を増やしていく。	A	A
	アンガーマネジメント（あだ名・呼び捨ても含む）を意識し、よい人間関係を醸成する指導を図ることができたか。	a		A	A
	支持的風土を醸成する学年・学級経営の充実を図ることができたか。	b		A	A ・子ども一人一人の声にしっかり耳を傾けていただいたと実感しております。 ・我が子らしく過ごさせていただいていることに感謝しています。いつもありがとうございます。
「いじめ」「不登校」等の未然防止や早期発見・早期対応	いじめ・不登校傾向のある児童の早期発見を図り、保護者との連携を強化しつつ、早期解決に向けて取り組むことができたか。	a	いじめや不登校等の未然防止や早期解決については、児童がSOSを出すことができること、教職員が児童の変化に気づき、SOSを受け止めることが大切である。このことから、引き続き教育相談の充実に努めるとともに、定期的なアンケート調査などを通して、早期発見・早期解決を図っていく。また、不登校支援コーディネーターを中心に、日常の児童観察や情報交流を通して、児童の変化に気づけるように学校全体で連携を図っていく。さらに、保護者には、いじめ防止基本方針を周知するなどして、学校のいじめ、不登校への取組を理解していただけるようにする。	A	A ・いじめにつながるような考え方や芽をつむのが大切だと思います。
ICTも活用した学び合いの充実を図る主体的・対話的で深い学びに向かう授業の構築	ICT機器も効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」の活動を取り入れた授業作りに取り組むことができたか。	a	新しいかたちの学び授業力向上推進チームやICT支援員の協力を得て、一人一台端末の利活用に積極的に取り組んできた。また、先進的な取組をしている学校での公開授業研究会に参加し、校内研修はもとより地域研修で他校へも還流報告を行った。今後もICT機器を効果的に活用し、「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業をめざし、さらなる授業改善を進めていく。	A	A
ICTも活用した基礎基本の確実な習得と活用を図り、思考力・判断力・表現力といった学力の定着	児童用パソコンやデジタル教科書などのICT機器を効果的に活用した授業作りに取り組むことができたか。	a		A	A
情報の提供と保護者・地域との双方向による連携の強化	コミュニティスクールの活動など（含PTA活動、各種ボランティア、学校だよりやリーフレットなどによる情報共有）を通して、学校・地域・家庭の連携の充実と強化を図ることができたか。	a	ホームページや安心メールを活用し、情報共有に努めてきた。また、完全ボランティア化したPTA活動、CS会議、地域行事への参加などを通して、学校・地域・家庭の連携の充実を図ってきた。 ICTを活用して、学校・地域・家庭が情報共有を図り、密に連携を図っていけるように、環境整備の充実を図っていく。	A	A ・子どもが休んだ時に、児童用パソコンを通して毎回連絡をくださいます。本当に感謝しております。
各種学校との連携の充実	高等学校、中学校、幼稚園・保育園との連携の充実と推進を図ることができたか。	a	幼・小・中における一貫した教育や情報共有による接続の円滑化は、児童生徒の不登校等の未然防止につながることから、今後も連携の充実努めていきたい。中学校の乗り入れ授業や近隣小・中学校の授業参観、幼稚園への保育参観や小学校入学前の学校見学などを実施した。今後も、可能な範囲で交流を増やしていく。	A	A ・函館高等支援学校との交流は、視野に入りませんでしょうか。先生方の研修先としてもよいのではないのでしょうか。

■ 自己評価達成状況

a	ほぼ達成できた（8割以上）
b	概ね達成できた（6割以上）
c	十分ではない（4割以上）
d	達成できなかった（4割未満）

■ 自己評価の適切さ及び改善の方策の適切さにかかる評価

A	自己評価及び改善策は適切であり、取組を進めるべきである。
B	自己評価及び改善策は適切であるが、若干の修正は必要である。
C	自己評価及び改善策の方向性はよいが、若干の修正が必要である。
D	自己評価及び改善策を再度検討する必要がある。